やくも！

黒岑竜一

注意事項

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

八雲家の緩い日常を心折れぬ程度に書いた物語。

「・・・キャラ絞って書くか」

目　次

留守番！ ―――― 1

留守番！

「じゃあお留守番頼んだよ、橙」
「はい！」
「私は？」
「紫様はずっと寝ていて下さい」
「酷くない!?」

―――――――――――――――――――――――――――――――

「頑張るぞ――！」
「あら、張り切ってるわねえ」
「でも、このマヨヒガに侵入者なんてそうそう・・・」
　ガララ・・・
「真正面から来たわ・・・」
「違う！　あの音は藍しゃまです！」
「絶対藍しゃまです！」
　ドタドタドタ・・・

「・・・行っちゃったわね」

「藍しゃまー!」
「ちーす、遊びに来たぜ☆」
「帰れ!」
「何この仕打ち」
「あら、魔理沙じゃない」
「おお紫、寝て無いなんて天変地異でも起きるか?」
「このガキャ」
「ここは橙が守る!」
「藍しゃまに任せられたんだもん!」
「ほー、そりゃ大層なこった。　よっと!」
「うにゃ!?　はーなーせー!」
「ほーら高い高い」
「はーなーせー!」
「よーしよーし」
「それくらいにしときなさいよ」

「そーだな」
「守れなかった！　もっと藍しゃまみたく尻尾が多ければ守れたのに！」
「尻尾の数は関係ないと思うぜ」
「ところで腹減ったんだがなんか無いか？」
「饅頭ならあるわ」
「お、いただくぜ」
「コレでも食らえ！」
「投符　饅頭怖い！」
　ブンッ！　　ベシャッ!!
「・・・・・・」
「どうだ！　でていくきになったか！」
　トコトコ・・・　グワシッ！
「オラァァァ！」
　ブンブンブンブン！
「うにゃあああ！」
「辞めなさいな」
―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

「なる程な、いまあの狐は居ないのか」
「狐言うな！　藍しゃまだ！」
「まあまあ落ち着けって」
「むーっ！　これならどうだ！」
「投符　熱いお茶が怖すぎる！」
　ガシッ！　ブンッ!!
「その手はもうくわんぜ！」
　ビシャッ！・・・・
「あ・・・」
「にゃ・・・」
「・・・・・・魔理沙」
「ん？」
「何か言うこと、あるんじゃない？」
「ああ、スマねぇ☆」
「はっ倒すぞ」
――――――――――――――――――――――――
「藍しゃままだかなー？」

「もう少しよ」
「急ぎすぎだなぁ、禿げるぜ」
「あんたはのんびりし過ぎよ、一体何時間居るわけ？」
「細けぇこたぁいいんだぜ」
　ガララ・・・
「ただいまー」
「あ！　藍しゃまだ」
「藍しゃま―！」
「おお橙、ちゃんと留守番できたかい？」
「はい！　一人でちゃんと出来ました！」
「私は？」
「あら、紫様まだ起きてらしたんですか？　珍しい」
「私を何だと思ってるのよ」
「よお藍、邪魔してるぜ」
「とんだ来客が来ていますね・・・」
「これまた大層な嫌われ様だぜ」
「夕飯は食べていきますか？」

「そうだな、たっぷりと頼むぜ!」
「帰れ!」
・・・続く!